

本年度の重点目標	①学ぶ意欲を高めるための授業改善 ②自己指導能力の育成とこころ豊かな生活を築く態度の育成 ③安全・安心な学校づくり ④家庭や地域との協働による教育の推進 ⑤実効性のある働き方改革への取り組み		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	①業務の効率化と次年度への円滑な引き継ぎ ②防災体制の充実 ③コロナ禍におけるPTA活動の精選	①業務の複数担当制の確立と、現行のマニュアルの見直し・改善を図る。 ②「非常災害時の避難経路」や「激甚災害時初動活動マニュアル」などの抜本的な見直し。 ③コロナ禍において、PTA役員会、総会等のPTA活動の方法を研究する。	①業務の複数担当制はおおむね実施できたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの学校行事が変更となり、一部の業務が増加した。教員の多忙化解消のため人員の増員が今後の課題である。 ②教室設備の変更などで、避難経路の一部変更することができた。大規模災害マニュアルを作成することができ、大府市の洪水ハザードマップを各教室に提示することができた。 ③新型コロナウイルス感染症の影響により、今年も多くの特A行事が中止となった。PTA総会については2年連続書面決議書によって実施することができた。
教務部	①主体的な学習習慣の確立 ②ICTを活用した主体的・対話的で深い学びを推進するための取り組み ③新学習指導要領に向けた評価の研究	①課題に地道に取り組む習慣の確立に加え、自らの学習状況を把握し、自分自身に必要なことは何か考えて自ら行動できるように導く。 ②配備された1人1台パソコンの有効活用を研究する。 ③令和4年度実施の新教育課程では観点別学習状況評価の各観点が3観点に整理されたことに伴い、各教科で評価に関して具体的な方法を研究する。	①公開授業時に生徒用のアンケートを実施した。「主体的に授業に参加できたか」という問いに対し、5段階評価の平均値は4.55と高い値を示した。「今後どのような授業であれば興味関心をもって参加できるか」という問いに対し、「自分たちの生活とかかわりのある内容」という回答が多かった。また、「タブレットを利用して、他の人と意見を共有する」など、ICT機器の利用を求める意見があった。授業内容と生徒自身との関わりを意識させ、生徒が自分の考えを表現する場を設けることが、主体性を身に付けさせるために必要であると感じた。 ②多くの教科、科目の授業で、ICT機器を利用した授業が実践された。併せて、それらの活動について、研究推進委員会を通して情報を共有することができた。また、長期欠席の生徒などに対し、タブレット端末を利用して、オンラインによる授業も実施した。今年度は、ICT機器が単発的な授業での利用に留まったケースも多かったが、今後は一部の授業に留まらず、学校全体でICT機器が教員として幅広く継続的に利用されるようにしていきたい。 ③各教科に教育課程愛知県協議会の動画を視聴したうえで、現在行っている学習評価について、4観点から3観点への整理と全体のバランスの確認をお願いした。また、評価がバランスよくできない場合には、新たな評価の方法（パフォーマンス課題や振り返り活動等）を検討するようにお願いした。これに伴い、現在、学習評価の内規ならびに運用規定等を、内規検討委員会を通して3観点の観点別学習状況評価に合わせて見直している。新しい3観点の評価方法や評価規程（基準）については、来年度以降も研究を進めていく必要があると考える。
生徒指導部	①基本的生活習慣の確立(遅刻防止) ②交通安全意識・登校マナーの向上 ③身だしなみ確認週間の理解	①8時35分に教室へ入室、5分前登校の指導を継続、徹底させる。 ②交通安全指導への生徒参加、地域へのアピールしながらPTA合同指導時に保護者のたすき利用、自転車登録・点検時に交通安全指導を徹底させる。自転車通学路及び自転車の交通ルール・マナー(ながらスマホ等)の徹底を守る。 ③身だしなみ確認週間の理解、また登校指導、交通安全指導時の校門指導を継続して実施する。年度当初に「生徒指導に関する確認事項」を全職員に配付し、指導内容・方法の確認する。	①昨年度の遅刻指数0.42(総数401)から今年度は0.65(総数620)となり、5割増となった。各クラスでの5分前登校とともに、遅刻が多い特定の生徒への働きかけを各担任を中心に行っていく必要がある。 ②緊急事態宣言等があり、当初予定していた大府高校北交差点等での交通安全指導が一部実施できなかった。交通安全指導を各教室で行い、各担任からの指導に変更した。交通事故発生件数は、今年度11件、昨年度13件で若干減少した。特定のクラスでの件数が多い状況であったが被害が多かった。今後はその点も含めて指導していく必要がある。 ③生徒主導での身だしなみ確認週間を実施した結果、生徒自身が主体的に身だしなみを確認することができた。反省として、1年生を中心にルール等を理解していない生徒がいたので登校指導等を通じて、徹底をさせていきたい。また、髪型の規定に関しては、今後検討していく必要がある。
進路指導部	①進路行事計画の改善 ②学びの基礎診断実施に向けた準備 ③主体的に進路選択をさせ進路実現をサポートする。	①それぞれの進路行事を検証し、改善を図る。 ②令和4年度から学びの基礎診断を円滑に実施できるよう、各教科と連携しながら準備をする。 ③進路相談の充実を図る。生徒の進路選択に関する満足度を図るアンケートを第3学年の生徒に実施し、7割以上の生徒が満足感を得ることを目標とする。	①各学年団との連携を取りながら、補習、夏季セミナー、夏季講習、冬期講習、冬期講習などの学習活動や各学年それぞれの進路研究等の行事を実施してきた。反省を生かし、次年度につなげていきたい。 ②各教科と連携しながら、時期やツールを決めた。目的を踏まえて実施していきたい。 ③3年生へのアンケートの提出最終締め切りが3月14日となっている。結果については次年度報告予定である。
保健厚生部	①昨年度に引き続き新型コロナウイルス対策 ②思春期の生徒の心のケアを充実し、学校生活を健やかに送れるようにサポート ③校内、校舎周辺地域の清掃活動	①毎朝の検温と手洗いを含めた健康観察を充実させる。 ②週一回の相談部会、学期に一度の教育相談委員会を通じて教育相談・特別支援教育体制を充実させる。 ③学期に一度の除草作業、年一回の校外ボランティア活動を行う。	①毎朝の検温と手洗いを含めた健康観察を継続してきた。自分自身の健康意識を高める効果がある程度あったと思われ、来年度も継続していく。消毒液を増やすなど、感染対策をさらに充実させた。 ②週一回の相談部会で細かく情報交換をし、スクールカウンセラーにつなげてきたが、問題が深刻なケースも多く、生徒のメンタルヘルスを改善することが難しいケースも多かった。月1回のスクールカウンセリングでは相談時間が足りずに、担任、養護教諭による相談時間が増えた。来年度もさらなる連携をはかっていく。 ③学期に一度の除草作業では生徒が生き生きと活動する場面が見られた。今年度は草がないため第3回の冬の除草を中止となり、適切な時期に計画を立てる必要があった。ボランティア清掃は新聞記事に掲載され、目に見えて環境が美化されることで生徒が達成感と充実感を感じることができた活動だと思われる。
図書情報部	積極的な情報発信と生徒用タブレット端末の導入・運用	①図書委員を中心に新着図書の情報を紹介しながら、行事や時期に応じた図書の話題を提供し図書利用の活性化に努める。 ②ホームページ等を充実させ、地域への情報発信を活発に行う。 ③情報機器の使用法を職員に周知するとともに、生徒用タブレット端末の導入・運用を目指していく。さらに、ICTの校内での活用を活発にする。	①アクリル板設置のおかげでコロナ禍でも収容人数が増え、図書館利用も増えた。図書館便りも着実に発行され、職員及び生徒に好評を得ている。 ②分掌や学年にホームページ担当者や設けたり、校内の仕組みも変更したりすることで、情報収集を迅速に行った。その成果もあり、トビックスの更新頻度も増え、地域の方々にとって魅力的なものにすることができた。今後も継続的にホームページを更新していきたい。 ③生徒各々にタブレット端末もベース、運用方法を規定した。今後、校内の実情に合わせて、よりよい活用ができるよう改訂をしていく。ICTの活用では、Microsoft teamsを導入することでオンラインによる遅刻欠席連絡、アンケート集約、オンライン授業などが実施できるようになった。引き続き、各分掌と連携して、よりよい運用方法の検討をしていく。
生徒会部	豊かな心の育成につながる学校行事の企画、運営	①外部施設で実施する学校祭の安全かつスムーズな運営 ②暑さ対策に重点を置いた球技大会の運営 ③生徒主体の議会運営の充実 ④学校設備の点検、補修の徹底	①直前に感染症対策の観点より変更を余儀なくされたが、安全かつスムーズに当日は運営できた。 ②今年度は例年より気温が低かったため、安全に実施できた。 ③生徒主体で円滑に行うことができた。日程に余裕を持つことができれば、さらに質を上げていけると考える。次年度に生かしたい。 ④良好であった。
生活文化科	社会に求められる職業人として必要な資質や能力の修養	①授業改善への取組と、指導と評価の一体化に努める。 ②新教育課程の来年度の実施に向けて、最終確認を行う。 ③生活文化の伝承・創造に関する学習を充実させるため、あいちものづくり文化継承事業に継続して取り組み、実践的な技術・技能を習得させる。	①来年度から導入される新教育課程に向けて各科目の特色に合わせてICTを活用した授業改善を図った。生徒にとっては資料提示や意見交換などでの活用は学習内容の理解が深まり、教員にとっては課題の提出などでの利用により、業務の効率化を図ることもつながった。また新一年生の評価について研究を続け、指導と評価の一体化の準備を続けている。 ②来年度から実施される新教育課程を最終確認した結果、一部科目の単位数を見直した。このことにより、実習内容の充実と生徒の居残り時間の削減が期待できる。 ③各科目の特性に合わせ、生活文化の伝承・創造を意識した授業展開を図った。外部講師を招く授業については一部見合わせた講座もあるが概ね実施できた。生徒には大変有意義な機会となっている。来年度以降は、さらに予算を含めて実施形態の検討が必要である。
第一学年	「基本的生活習慣と学習習慣の確立」	①面接や相談、声かけを充実させ、生徒の心身の健康状態を把握・保持する。 ②時間・規律・期限を守り、コミュニケーションの第一歩である挨拶を気持ちよくできる集団を育成する。 ③授業を真剣に受けることのできる環境を整え、家庭学習の習慣を身につけさせる。 ④保護者との連絡を密にし、こまめな情報交換を心がける。	①定期的な面談を行い、積極的に生徒の心身状態を把握することができた。 ②年間を通して期限を守ることができるようになった。挨拶は気持ちよくできている。 ③授業に真剣に取り組むことができている。2学期に少し緩む生徒も見られたが改善した。 ④欠席・遅刻・早退のみにとどまらず、学校生活・家庭での様子の変化について情報共有ができていた。担任会、学年会を通じて、教員間での情報共有もできサポートする体制と心構えをすることができた。
第二学年	見聞・選択・実践～考動の変容を目指して～	①授業に集中できる環境を整え、能動的に取り組む姿勢を引き出す。その中で、わかる喜びや自己の伸びを実感できる生徒が、全体の80%以上になるよう努める。 ②学校生活の基本的な習慣を身につけ、様々な行事を含めた集団生活を通じて帰属意識を高める。また、挨拶・時間の遵守・礼儀の大切さを伝えることで規律ある態度を育てる。 ③災害に備える心構えと、心身の成長に合った危機管理意識を持たせる。 ④保護者との連絡を密にとり、生徒を学校と保護者で支える。情報提供のために、メール配信システムの登録100%を目指す。 ⑤学年団の連携により教育効果を向上させるとともに、働き方を見直しゆとりある教育ができる環境にする。教員個々の時間外勤務が昨年度比50%以下を目指す。	①教室の環境整備は十分できており、授業規律も守られ学校での学習環境については概ね良好である。家庭での学習については、課題提出は出来て自ら計画して学習を進める姿勢はまだ不十分であるが、進路意識の高まりとともに能動的に学習を進める生徒も増えてきた。 ②朝の5分前登校は概ね徹底できていたが、2学期は時差登校により十分でない状況もあった。11月に実施した修学旅行は、集団生活において様々なことを意識させる場面として、多くのことを学ばせることができた。また、コロナ感染症対策により様々な制限や配慮を要したが、生徒や保護者の満足度は高く良い行事となった。 ③訓練時の意識づけに止まることなく、日常的にも災害の話題にふれ意識の高揚を図った。 ④出席状況や授業での様子、課題の提出状況など保護者との連絡を密にすることで教育効果を上げている。メール配信システムへの登録は順調に進み、行事における変更の連絡等効果的な使用ができた。 ⑤担任会を臨時に開くことなど、必要に応じて臨機応変に適宜情報交換を行う場を設定し、クラス間、教科間の連携を深めた。また、長期欠席者への対応や課題提出状況の把握などに努めた。職員の仕事方に関しては、事務手続き等の効率化により若干の改善はあったが、まだ残された課題は多い。
第三学年	①学習力の開化 ②進路希望の実現 ③学校満足度の向上	①授業を大切にさせ、その中でわかる喜びや自己の伸びを実感させる。そのうえで、生徒が自ら学ぼうとする意欲を高めていくよう努める。 ②生徒に進路希望先を十分に調べさせ、学習面等でも力を発揮できるようサポートする。また、面談を通して進路希望や適性を把握する。 ③1年次、2年次に引き続き、日頃のコミュニケーションによる生徒理解に努める。そのうえで、生徒が充実した学校生活を送り、満足度が高まることを目指す。	①学年全体として前向きに授業に取り組む姿勢を見せた。また、定期考査だけでなく、進路実現につながる学習にも意欲的に取り組むことができた。 ②進路希望の実現に向けて、適切に指導を行った。また、学力向上に加え、面談等を利用して生徒自身が個の適性を考える機会をつくった。 ③学習面や進路についての悩みをもつ生徒も多く、日頃のコミュニケーションを何より大切にして生徒理解に努めた。また、生徒情報の共有に努め、学年団全体で生徒を支える体制を整えた。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組み		①いじめの早期発見や未然に防ぐために、学校生活アンケートを年3回行う。 ②いじめ不登校対策委員会を定期的に行ない、情報の共有化を図り、学校全体でいじめに対して取り組む。	①3回の学校生活アンケート結果をもとに迅速に対応することができた。 ②いじめ不登校対策委員会での情報の共有を行うことができたので、今後も継続していきたい。また、よりきめ細かく対応するために担任会や学年会を通じて情報の一層の共有化を図っていきたい。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況		①定時退校日を月1回程度設定し、在校時間が1か月あたり45時間、1年間360時間を超えないよう業務を適正に割り振る。 ②在校時間等の状況記録の結果を活用し、学校医や養護教諭、スクールカウンセラー等と連携して、教職員のメンタルヘルスの維持向上に努める。 ③年次休暇を取得しやすいよう環境を整備する。	①定時退校日は月に1回設定し年間予定にもあるが、当日のアナウンスでは、対応できない職員も多いため、数日前から伝え当日までの計画的な勤務を促すこととした。 ②コロナ禍丸2年となるが、各波の折にはより厳しい感染対策やワクチン接種の支援、その後の対応など新たな業務も生じている。そのため、勤務超過となる職員も増加しているため、外部の援助や職員同士の援助がしやすい環境を整えることが必要である。 ③授業後の会議で他の時間に設定できるものは時間変更して授業後の時間確保に努める一方、会議等が急に設定されることがないよう計画的な業務が行えるよう来年度の計画を立てていきたい。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	①学ぶ意欲を高めるための授業改善 ②自己指導能力の育成とこころ豊かな生活を築く態度の育成 ③安全・安心な学校づくり ④家庭や地域との協働による教育の推進 ⑤実効性のある働き方改革への取り組み		①ICT機器やタブレット端末を用いた授業またはオンライン授業などが、研究指定校としての取組やコロナ禍による急を要する事態により進むこととなった。これらを今後、創意工夫を凝らした授業の展開につなげ、生徒の学ぶ意欲を高めていきたい。 ②コロナ禍での生活が続く中、心身ともにその影響を受ける生徒も多いため、きめ細やかな観察や面接、教育相談活動等からの生徒理解と支援は必要性を増している。来年度は面接週間をもつなど、より迅速な対応ができる環境を整えていく。また、コロナ禍でもいかにしたらやれるかを考えることで、生徒の能動的な姿勢を育てていきたい。 ③救急法講習会を始めとする学校安全・学校保健に対する意識、コロナ禍を災害ととらえることによる防犯・防災意識の向上は一過性に止まらない継続的な学びを必要とする。ICT機器を活かした学びを取り入れ、より身近に学ばせていきたい。 ④挨拶運動はPTA合同のものは実施できなかったが、生徒会を中心に校内活動は実施できた。今まで実施してきた地域活動を今後絶やさないことが、大切である。 ⑤安全衛生委員会が職員の仕事環境を改善するきっかけとなるよう活発な議論・検討を心がけた。これらの内容を職場全体に広め、今まで慣習となり意識しなかった面にも目を向け、働き方を見つめる機会とした。